

日本教育方法学会

第55回大会プログラム

前日 9月27日 (金)	18:00 19:30	全国理事会 (ウインクあいち)
--------------------	--------------------	-----------------

第 一 日 9月28日 (土)	8:30	受 付 開 始								
	9:15	課題研究Ⅰ 教育における集団の意味を問い直す				課題研究Ⅱ 教育学分野の参照基準(案)と教職課程コアカリキュラムの検討 -教育方法学として、どのように向き合うか-				
	11:15									
	11:20									
	12:10	総 会								
	13:00	休 憩								
		自由研究 1	自由研究 2	自由研究 3	自由研究 4	自由研究 5	自由研究 6	自由研究 7	自由研究 8	自由研究 9
	15:40									
	15:50	公 開 シ ン ポ ジ ウ ム 子どものいのちを守り、安心・安全を保障する学校の役割 -生活・福祉から学校を問い直す-								
	18:20									
18:30										
20:00	会 員 懇 親 会									

第 二 日 9月29日 (日)	8:30	受 付 開 始								
	9:00	自由研究 10	自由研究 11	自由研究 12	自由研究 13	自由研究 14	自由研究 15	自由研究 16	自由研究 17	自由研究 18
	11:40									
	13:15	休 憩								
	15:15	課題研究Ⅲ Research on Teaching としての 授業研究の可能性				課題研究Ⅳ 道徳教育の基本と実践の探究				
	15:30	ラウンド テーブル ①	ラウンド テーブル ②	ラウンド テーブル ③	ラウンド テーブル ④	ラウンド テーブル ⑤	ワー ク ショ ップ ①	ワー ク ショ ップ ②	ワー ク ショ ップ ③	ワー ク ショ ップ ④
	17:00									

2019年 9月28日(土)・9月29日(日)
於 東海学園大学

大会参加要領

1. **会場案内**：会場は、東海学園大学(名古屋キャンパス)です。会場への経路につきましては、次頁をご参照ください。
2. **受付**：両日ともに**8：30**からとなります。
受付は3号館 学生ホールで行います。
 - ・大会参加費（『大会発表要旨』代を含む）は、一般会員4,000円、学生会員3,000円です。
 - ・当日会員（臨時会員）もこれに準じて受け付けております。
 - ・本年度までの学会費（一般会員8,000円、学生会員6,000円）を未納の方は、あわせてお納めください。
 - ・本年度の学会費を納入された方には、受付にて『教育方法48』をお渡しします。
 - ・会員懇親会の参加受付も行いますので、ふるってご参加ください。会費は4,000円となっております。詳しくは、15頁の「インフォメーション」をご覧ください。
 - ・受付にてネームプレートを用意しておりますので、お名前をお書きのうえ、おつけください。
3. **昼食**：大学周辺のコンビニ・飲食店をご利用ください（別紙として配布いたしました「大学周辺のコンビニ・飲食店」をご参照ください）。大学内の食堂の営業と弁当の販売はしていません。
4. **研究発表**：発表会場につきましては、4～6頁の「会場配置図」をご覧ください。
 - ・自由研究の発表時間は、以下の通りです。
個人研究：発表20分 質疑10分
共同研究：発表30分 質疑10分
(但し、口頭発表者が1名の場合は、個人研究に準じます。)
 - ・自由研究における共同研究発表者の氏名にある○印は口頭発表者を表しています。

〈交通手段のご案内〉

東海学園大学

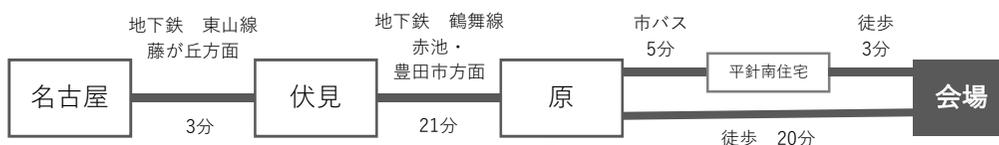
- ・名古屋市営地下鉄 鶴舞線 「原」 駅下車

□ 2番出口より 徒歩20分

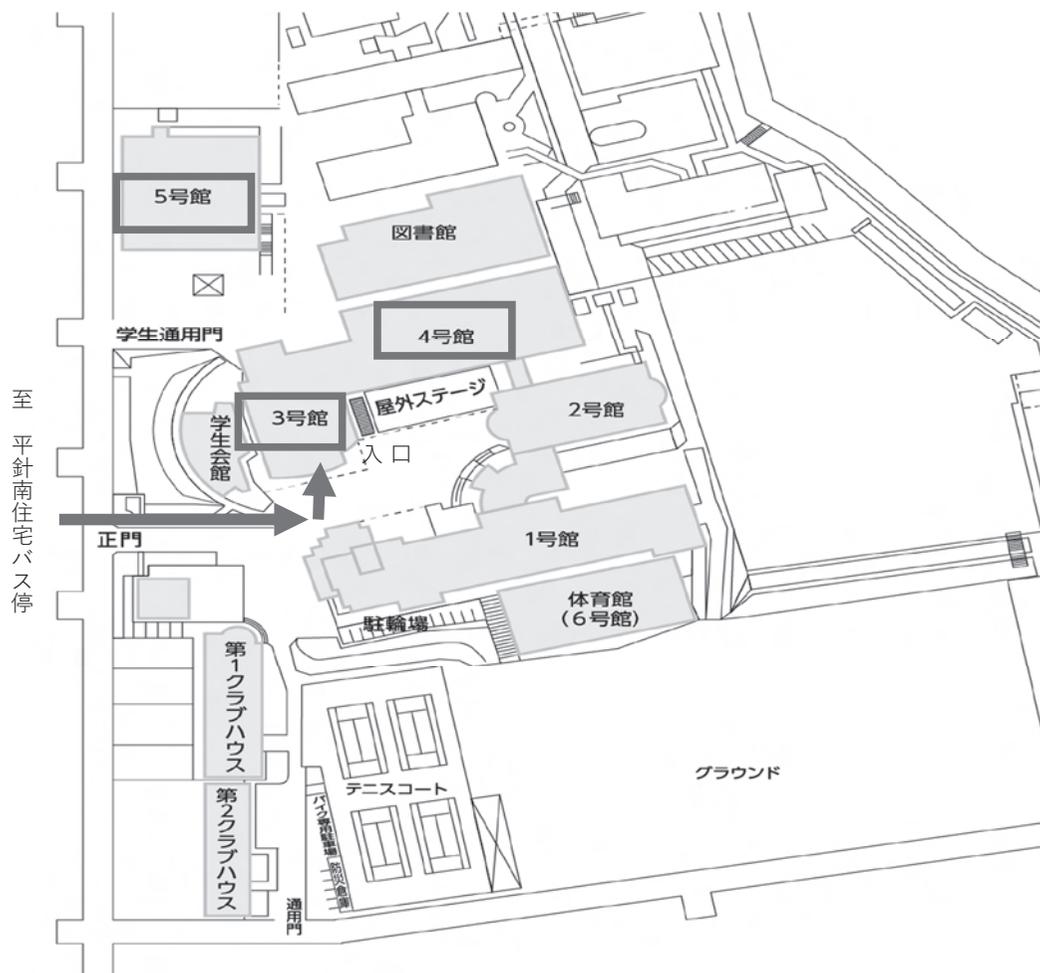
または

□ 2番出口より 市バス「地下鉄原」から「平針南住宅」下車（大人210円）（徒歩3分）

※「地下鉄原」発の「平針南住宅」を通りますバスは、1番のりば2番のりばともに、5～10分間隔で運行しています。「平針南住宅」下車、ダイソーの横の道路を東へ坂を上ると大学の正門へ到着します。自家用車の入構はできませんので、公共交通機関をご利用ください。



〈会場配置図〉



正門より、3号館へお越しください。受付は入口に設置されています。

会場配置

受付：3号館学生ホール

総会：3号館311大講義室

公開シンポジウム：3号館311大講義室

課題研究Ⅰ：3号館331

課題研究Ⅱ：3号館332

課題研究Ⅲ：3号館331

課題研究Ⅳ：3号館332

自由研究1・10：4号館420

自由研究2・11：4号館421

自由研究3・12：4号館422

自由研究4・13：4号館423

自由研究5・14：4号館424

自由研究6・15：4号館430

自由研究7・16：4号館431

自由研究8・17：4号館432

自由研究9・18：4号館433

ラウンドテーブル①：4号館420

ラウンドテーブル②：4号館421

ラウンドテーブル③：4号館422

ラウンドテーブル④：4号館423

ラウンドテーブル⑤：4号館424

ワークショップ①：4号館430

ワークショップ②：4号館431

ワークショップ③：4号館432

ワークショップ④：4号館433

会員控室：4号館425

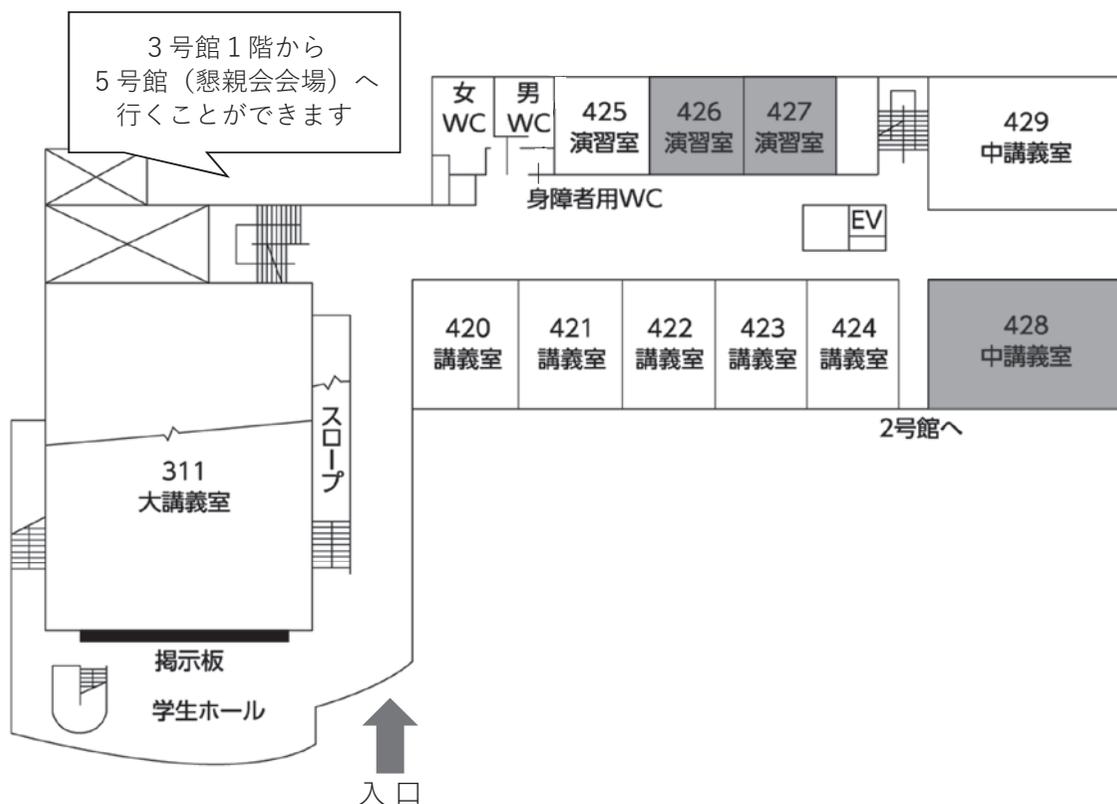
クローク：4号館429

事務局：4号館429

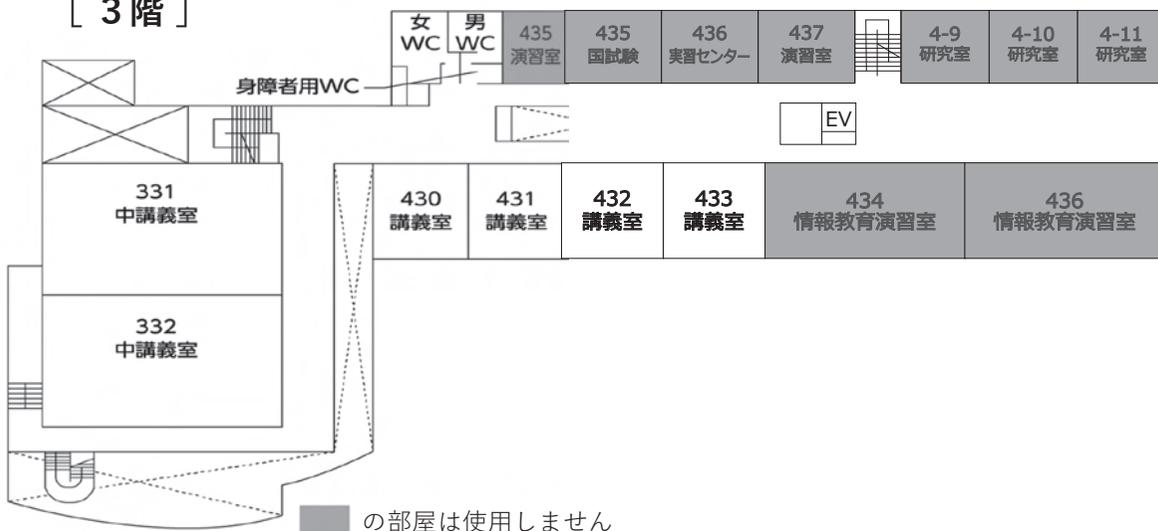
*会員懇親会の会場は5号館1階学生食堂です。

〈3号館 / 4号館 配置図〉

[2階] ※ 入口階は2階です



[3階]



〈懇親会会場への行き方〉



9月28日(土) 9:15~11:15

課題研究 I

教育における集団の意味を問い直す

(3号館331)

コーディネーター・司会・指定討論者

阿部 昇(秋田大学)
田上 哲(九州大学)

提案者

折出 健二(愛知教育大学名誉教授) 〈学び〉〈ケア〉〈自治〉を核とする学校改革と集団の再生は可能か
—対話等の関係性と知の自由を結ぶ脱「競争・選別」の学習集団へ—
熊井 将太(山口大学) 学習の個別化と学級授業との関係性
—その歴史と現在—

〈設定趣旨〉

現在、対話的な学びが重視されようとする一方で、個別化学習、アダプティブ・ラーニング(適応学習)、ブレンディッド・ラーニング(BL)、パーソナライズド・ラーニング(PL)等を推奨する声も大きくなりつつある。また、学級崩壊という現象が一般的なものとなって日常化し、いじめや不登校の大きな要因として学級集団における人間関係の問題があることが指摘されつつある。そういうなか、あらためて教育における集団というものについて根本的に問い直してみる必要があるだろう。本課題研究では、学習集団論の立場と学級集団論の立場から報告いただくとともに、教育/学習の個別化について検討を進めていきたい。それを通じて、教育において集団がもつ意義と課題について論議を展開し、これからの教育において集団というものをどのように考えていけばよいか、その手がかりを得たいと考えている。

9月28日(土) 9:15~11:15

課題研究Ⅱ

教育学分野の参照基準(案)と教職課程コアカリキュラムの検討

— 教育方法学として、どのように向き合うか —

(3号館332)

コーディネーター・司会者

西岡 加名恵(京都大学)

草原 和博(広島大学)

提案者

松下 佳代(京都大学) 教育学分野の参照基準の構想

— その意義と課題 —

三石 初雄(東京学芸大学名誉教授) “教職課程コアカリキュラム”の策定と教師教育を
めぐる課題

森田 真樹(立命館大学) 私立大学教員養成における参照基準及びコアカリ
キュラムの意味

— 一般大学における教員養成を中心に —

〈設定趣旨〉

本課題研究では、教育学分野の参照基準(案)と教職課程コアカリキュラムで示された教育学像や教師像を再検討することを目的としている。教員養成のカリキュラムは、大きく2つの要請に規定されている。1つは、教育学の学問的体系に基づくカリキュラムであり、研究上の知見を教員養成に還元していくことである。もう1つは、教員養成の実践的・政策的課題に基づくカリキュラムであり、教育現場の課題に応えるものとしていくことである。これらベクトルを異にする求めを、私たちはいかに調整していけばよいのだろうか。

現在、日本学術会議では「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 教育学分野」に関する議論が展開されており、参照基準に示された教育学・教育方法学の姿から、教職課程コアカリキュラムを読み直すこと、逆に教職課程コアカリキュラムに内在する教育学・教育方法学の役割から、参照基準を見直すことができる状況下にある。そこで本課題研究では、3人の提案者に、①教育学分野の参照基準の意義と課題、②教職課程コアカリキュラムの意義と課題、③大学教育の現場での受けとめ、についてご提案いただく。それを踏まえて、これらを教育方法学としてどのように「読み直し」「見直し」、そして「向き合う」かについてフロアと意見交換したい。

自由研究1

(4号館420)

司会者：金馬国晴(横浜国立大学)
豊田ひさき(朝日大学)

- 13:00 ① 戦後初期カリキュラム改革における学力低下問題への抵抗
—富山師範学校女子部附属堀川小学校における取組を通して—
山本銀兵(那覇市立泊小学校)
- 13:30 ② 「奈良プラン」における子どもの学びの実態
田村恵美(お茶の水女子大学大学院
東京家政大学)
- 14:00 ③ 島小の教育実践
—学校づくりにおける初期の学校公開研究会を中心に—
狩野浩二(十文字学園女子大学)
- 14:30 ④ 東井義雄の「こころの教育」に関する研究
—特別の教科道徳における教材化の視点から—
齋藤義雄(東京家政学院大学)
- 15:00 ⑤ 名古屋大学教育方法研究室における教育評価と子ども理解
—授業分析とR.R.方式の成果と可能性—
○柴田好章(名古屋大学), ○石原正敬(名古屋大学・研究員)

自由研究2

(4号館421)

司会者：石井英真(京都大学)
高橋英児(山梨大学)

- 13:00 ① どんな高校が学業を成功させるのか
—フランスの学校効果研究の視点から—
細尾萌子(立命館大学)
- 13:30 ② 授業研究における教授学の役割に関する一考察
—「教授学的授業研究」を手がかりに—
松田充(広島大学)
- 14:00 ③ 授業実践の様相—解釈的研究
—授業分析から授業づくりへの方途—
田代裕一(西南学院大学)
- 14:30 ④ 学習指導計画と実際の授業の照応によるエビデンスの抽出と機能に関する事例研究
的場正美(東海学園大学)
- 15:00 ⑤ 海外教員・OBOGと取り組む〈分かちあい〉協働研究についての実践研究
—2011年から2018年に取り組んだ〈分かちあい〉教育研究国際交流会議&
〈分かちあい〉授業研究大会からの考察—
○小島勇(東京電機大学), ○徳武隼人(東京電機大学大学院)
○大木茂樹(東京電機大学大学院), 張建(東京電機大学)

自由研究3

(4号館422)

司会者：今井理恵(日本福祉大学)
西岡けいこ(香川大学)

- 13:00 ① 部活動の主体的な取り組みにおける教育的効果の検討
河村明和(東京福祉大学大学院)
- 13:30 ② 勝田守一における生活指導概念の史的展開
松本圭朗(神戸大学大学院)
- 14:00 ③ 野村芳兵衛の生活指導論における科学と宗教
—協働自治による「生活訓練」を中心に—
北島信子(桜花学園大学)
- 14:30 ④ 初等教育における主体性概念の構造に関する国際比較研究
—日・英小学校における辞典指導記録の分析を通して—
深谷圭助(中部大学)
- 15:00 ⑤ 学級活動における話し合い活動の合意形成過程に関する実証的研究
—教師の助言を分析視点とした小学校学級活動(1)の授業分析を通じて—
清水克博(名古屋大学大学院
愛知教育大学)

自由研究4

(4号館423)

司会者：久野弘幸(名古屋大学)
白石陽一(熊本大学)

- 13:00 ① イエナ・プランにおける「居間の教育」思想と学校改革
—ペーターゼンのペスタロッチー受容を手がかりに—
安藤和久(広島大学大学院)
- 13:30 ② 「正統的周辺参加」論に依拠した総合的な学習の時間の授業研究
境野仁(深谷市立八基小学校)
- 14:00 ③ 学校と生活の接続方法としての多視点的授業
—「ヨーロッパ・プロジェクト」における多視点的・対話的な授業の実践と理論モデルの発展に着目して—
田中怜(筑波大学)
- 14:30 ④ 複合的な学習の課題設定と評価方法に関する基礎研究
—STEM, STEAM, 探究的な学習を事例として—
小柳和喜雄(奈良教育大学)
- 15:00 ⑤ お茶の水女子大学附属小学校の学校設定教科「てつがく」はどのように実践されているのか
—カリキュラムにおける役割に注目して—
○岡田了祐(お茶の水女子大学)
○福井駿(鹿児島大学)

自由研究5

(4号館424)

司会者：庄井良信(北海道教育大学)
三村真弓(広島大学)

- 13:00 ① 金森俊朗の「本物」を追求する教材研究の方法
上森さくら(金沢大学)
- 13:30 ② 戦後の野村芳兵衛における「仲間づくり」の教育思想の持続的発展
富澤美千子(横浜美術大学)
- 14:00 ③ 子どもの「いのち」と向き合う教育に関する一考察
ーヤヌシュ・コルチャックの「子どもの権利」の捉え方ー
松浦明日香(広島大学大学院)
- 14:30 ④ 戦後期における小出浩平の音楽教育論
藤井康之(奈良女子大学)
- 15:00 ⑤ 「図形楽譜づくり」による音楽科鑑賞領域の授業におけるイメージの共有可能性の検討
横山真理(東海学園大学)

自由研究6

(4号館430)

司会者：岩田遵子(東京都市大学)
山本理絵(愛知県立大学)

- 13:00 ① 保育者養成課程での「対話型ピアノレッスン」における知識・技能の構成過程に関する一考察
小栗祐子(東海学院大学)
- 13:30 ② 保育園、幼稚園、認定こども園における幼児の音楽的表現の動作解析結果に関する比較分析
佐野美奈(大阪樟蔭女子大学)
- 14:00 ③ 幼児の主体的な活動を促す環境構成と人間関係
ー砂・土で遊ぶ事例を通してー
藤井和子(関西保育福祉専門学校)
- 14:30 ④ 園長の役割と園運営の効果的な方法に関する研究 ー経験年数による比較ー
○野口隆子(東京家政大学), 上田敏文(名古屋市立大学)
椋田善之(関西国際大学), 秋田喜代美(東京大学)
芦田宏(兵庫県立大学), 門田理世(西南学院大学)
鈴木正敏(兵庫教育大学), 中坪史典(広島大学)
箕輪潤子(武蔵野大学)
- 15:00 ⑤ 保育記録に見る子ども理解の深まりと園内研修
ー認定こども園への移行を推進する子ども理解と園内研修とはー
○橋川喜美代(関西福祉科学大学), 太田顕子(関西女子短期大学)

自由研究7

(4号館431)

司会者：遠藤貴広(福井大学)
鹿毛雅治(慶應義塾大学)

- 13:00 ① ピーター・エルボウのライティング教育
—大学初年次教育におけるパーソナル・ライティングの意義—
森本和寿(京都大学大学院
日本学術振興会特別研究員)
- 13:30 ② J.P.Gee のディスコース概念からみる教職志望学生の学習に関する考察
—授業内における学生間のディスカッション場面を事例として—
山内絵美理(九州大学大学院)
- 14:00 ③ 学生の「学びに向かう力」を育む Round Study の活用
—教科内容論「生活」の授業実践についての検討—
原田三朗(四天王寺大学)
- 14:30 ④ PBL の問いをデザインする
—問いと向き合う探究学習の意義—
広石英記(東京電機大学)
- 15:00 ⑤ 学習デザインとしてのカリキュラム・マネジメント
—一般教員のための教科等横断的な学習デザイン力の育成にむけて—
○豊 寫 啓 司(福岡教育大学), ○柴 田 康 弘(福岡教育大学附属小倉中学校)

自由研究8

(4号館432)

司会者：佐久間 亜 紀(慶應義塾大学)
田 端 健 人(宮城教育大学)

- 13:00 ① 授業における「対話」を生み出す教師のリヴォイシングに関する研究
佐竹貴明(北海道大学大学院教育学院)
- 13:30 ② 小中一貫校づくりにおける教師の学習
—「越境」としての準備過程—
藤江康彦(東京大学)
- 14:00 ③ 複式学級における教師の意思決定に関する事例研究
○藤井佑介(長崎大学)
高柳侑奈(南島原市立布津小学校)
- 14:30 ④ 対話的な授業における教師の授業スタイルを捉える視座
増田美奈(富山大学)
- 15:00 ⑤ イギリスにおける oracy (オラシー) 教育の現状から
矢野英子(大分大学)

司会者：池野 範 男 (日本体育大学)
山住 勝 広 (関西大学)

- 13:00 ① 米国の文化に対応した指導における社会正義の考え方
—ポピュラー文化を教材とした授業実践を通して—
磯田 三津子 (埼玉大学)
- 13:30 ② Co-Creative Learning Session
—衣をめぐる学びの冒険—
青木 幸子 (昭和女子大学)
- 14:00 ③ 小学校における社会参画を目指した単元開発とその検討
—「地域をともにつくる」総合的な学習の時間を通して—
村越 含博 (美唄市立東小学校)
- 14:30 ④ Instructional Rounds における学びの分析
○廣瀬 真琴 (鹿児島大学), 木原 俊行 (大阪教育大学)
森 久佳 (大阪市立大学), 宮橋 小百合 (和歌山大学)
深見 俊崇 (島根大学)
- 15:00 ⑤ M-GTA を用いた高等学校における授業研究会の談話分析
—個人の葛藤と同僚性構築の視点から—
○永島 孝嗣 (麻布教育研究所), ○畑 中大路 (長崎大学)

9月28日(土) 15:50~18:20

公開シンポジウム

子どものいのちを守り、安心・安全を保障する学校の役割

— 生活・福祉から学校を問い直す —

(3号館311大講義室)

コーディネーター・司会者

川地 亜弥子 (神戸大学)

湯浅 恭正 (中部大学)

司会者

中野 和光 (美作大学)

提案者

丹下 加代子 (日本福祉大学非常勤講師
愛知県適応指導教室) わたしがわたしていいということ

早川 真理 (日進市教育委員会「SSWスーパーバイザー」) 学校が子どもにとって安心・安全な場であるために
— スクールソーシャルワーカーの立場から —

福田 敦志 (大阪教育大学) 「生きるに値する」学校を子どもと共に創り出す

指定討論者

折出 健二 (愛知教育大学名誉教授)

〈設定趣旨〉

貧困・児童虐待・いじめ等に象徴される今日の子どもの状況の中で、発達と自立の基盤である子どものいのちを守り、安心・安全を保障する学校とは何かが問われている。

本学会では10年前の2009年に「現代の学校・授業における共同性（平等）の問題」とするテーマでシンポジウムを設定し、貧困の再生産の「正当性」を承認させられる学校、学校から降りていく子ども・発達の貧困等をめぐって議論が交わされた。それから10年を経て、格差のいっそうの拡大や子どもたちの生存の危機ともいえる生活状況が進行している。

この間には、多様な教育機会の保障など、多様な教育的ニーズに応える教育の場の制度論的な議論が展開され、また、フリースクールをはじめとした不登校支援・地域生活指導としての学びの場づくり等が試みられてきている。

こうした状況に対して本シンポジウムでは、教育方法学研究として、生活と福祉を視野に入れ、学校の福祉的機能や公共性の位置を問い直し、同時に、学校外の多職種・学びの場との協働の在り方を探りながら、子どもたちの発達と自立を支える居場所づくり・学習権の保障等を見通す学校の役割とは何かを議論したい。

インフォメーション

●会員総会

日 時 : 第一日 (9月28日(土)) 11:20~12:10
会 場 : 3号館311大講義室
主な議題 : 会務報告
2018年度決算
2020年度予算案
次期大会校

昼食・休憩前ですが、ぜひとも多数ご参集ください。

●会員懇親会

日 時 : 第一日 (9月28日(土)) 18:30~20:00
会 場 : 5号館1階学生食堂
会 費 : 4,000円

会員相互の親睦をはかるため、懇親会を開きます。多数の会員のみなさまのご参加をお願いいたします。

●書籍販売について

学会事務局では、受付にて学会機関誌『教育方法』、研究紀要『教育方法学研究』、『大会発表要旨』の最新刊およびバックナンバーを、大会割引価格で販売いたします。この機会にぜひお求めください。

なお、『教育方法』最新刊(第48巻)は、本年度の学会費を納入された方には、受付の際にお渡しいたします。大会以降に学会費を納入された方には、随時お手元に郵送いたしております。

●無線 LAN について

9月28日、29日は学内無線 LAN をご利用いただけます。

SSIDは「XXXXXXXXXX」となっております。パスワードはなしで、基本的には名古屋キャンパス内全館で接続可能です。ただし、共有スポットなので不必要なファイルのアップロードやダウンロード、容量の大きなデータ通信についてはできるだけお控えください。また、個人情報などを扱っているソフトやページの接続はできる限りお控えください。

9月29日(日) 9:00~11:40

自由研究10

(4号館420)

司会者：大野 栄三 (北海道大学)
小柳 和喜雄 (奈良教育大学)

- 9:00 ① 東アジアにおける AI 教科書の開発に関する研究
張 建 (東京電機大学)
- 9:30 ② 子どもの誤答が示す算数科学習指導の改善の視点
—外延量の測定におけるスキーマと課題づくり—
近 藤 毅 (広島都市学園大学)
- 10:00 ③ 科学技術リテラシー育成のための中学校数学科関数領域のデザイン研究
伊 藤 伸也 (金沢大学)
- 10:30 ④ 国定教科書(第1期版)の使用時期における分数除法の計算規則の説明に関する
実践的研究の動向
—天下り的な性格の克服に向けた取り組みの存在とその諸形態—
岡 野 勉 (新潟大学)
- 11:00 ⑤ 空間認識形成を通じたシティズンシップの育成はどのように論じられてきたか
—日本の初等・中等教育における研究のメタ分析—
○渡 邊 巧 (広島大学), ○大 坂 遊 (徳山大学)
○阪 上 弘 彬 (兵庫教育大学), 岡 田 了 祐 (お茶の水女子大学)

自由研究11

(4号館421)

司会者：森 久佳 (大阪市立大学)
吉 村 功太郎 (宮崎大学)

- 9:00 ① デューイによる形式段階論の解釈とデューイ実験学校における歴史科の教授・学
習過程論の展開
中 村 仁 志 (愛知教育大学大学院
静岡大学大学院)
- 9:30 ② 歴史討論授業における生徒の動機づけと意味づけ
星 瑞 希 (東京大学大学院)
- 10:00 ③ 戦後イタリアにおける現代史教育の展開
—歴史教育研究における位置付けに着目して—
徳 永 俊 太 (京都教育大学)
- 10:30 ④ 高校世界史授業における論述指導と評価の事例研究
—認知的徒弟制を手がかりにして—
中 村 洋 樹 (四天王寺大学)
- 11:00 ⑤ 中学校社会科授業における意見交流過程の可能性
—中間項の拡張による発言の関連可視化と内容分析—
中 道 豊 彦 (愛知県立半田高等学校)

自由研究12

(4号館422)

司会者：新井英靖(茨城大学)
樋口直宏(筑波大学)

- 9:00 ① アメリカの小学校社会科の授業分析
—シカゴ実験学校とPASSの社会科授業に注目して—
酒井喜八郎(南九州大学)
- 9:30 ② インクルーシブ授業にむけた認知検査利用に関する試み
—個別検査DN-CASと簡易チェックリストPRSの併用をとおして—
松尾奈美(鳥根大学)
- 10:00 ③ 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成に向けた取組
—管理職等研修会と沖縄県宜野湾市立普天間第二小学校での取組を中心に—
白尾裕志(琉球大学)
- 10:30 ④ 授業における子どもの認識の展開過程の可視化
—オントロジーを利用して—
○坂本将暢(名古屋大学), ○丹下悠史(愛知東邦大学)
柴田好章(名古屋大学), ○桒寄志保(名古屋大学)
水野正朗(東海学園大学), ○向井昌紀(名古屋大学大学院)
○石黒慎二(名古屋大学大学院), ○徐曼(名古屋大学大学院)

自由研究13

(4号館423)

司会者：田代高章(岩手大学)
百々康治(元至学館大学)

- 9:00 ① 陶冶理論的教授学における学問と人間形成の関係性の再考
宮本勇一(広島大学大学院
日本学術振興会特別研究員)
- 9:30 ② 文脈的アプローチによる資質・能力の育成と評価の実践的研究
衛藤晶子(畿央大学)
- 10:00 ③ 教育の質保障とスタンダード
—ドイツにおけるオルタナティブスタンダードの試み—
高橋英兎(山梨大学)
- 10:30 ④ 「経験の再構成」としての「パフォーマンス・スタンダード」の開発とその特徴
清村百合子(京都教育大学)
- 11:00 ⑤ 教授内容の選択・編成・決定・学習指導における教師の権限と相互批判
佐藤年明(京都橘大学)

自由研究14

(4号館424)

司会者：森 美智代(福山市立大学)
渡辺 貴裕(東京学芸大学)

- 9:00 ① 文学の学びにおけるつぶやきの機能
野崎 悠治(大磯町立国府中学校)
- 9:30 ② 文学的な文章を「精査・解釈」することについての研究
—「スロー・リーディング」という読みの方法の適用—
森川 拓也(桜花学園大学)
- 10:00 ③ 審美的距離が表現活動と言語学習に与える影響
—即興的ストーリーテリングの分析—
三野宮 春子(大東文化大学
東京大学大学院)
- 10:30 ④ 言語教育における詩性の意義
伊藤 美和子(豊岡短期大学)
- 11:00 ⑤ 学びの深さを志向する学級における教師の〈結び付ける力〉の分析
—文学教材の読みをめぐる学習者の変容を通して—
○吉 永 紀子(同志社女子大学)
○松 崎 正 治(同志社女子大学)

自由研究15

(4号館430)

司会者：竹内 元(宮崎大学)
米村 まるか(中部大学)

- 9:00 ① 木下竹次の合科学習の思想とその実践
須谷 弥生(広島大学大学院)
- 9:30 ② 進路多様高校におけるカリキュラム開発
—社会に開かれた教育を通して—
望月 未希(東京都立多摩高等学校)
- 10:00 ③ 「共生」を志向するカリキュラムにおける「性の多様性」
櫻井 瀬里奈(広島大学大学院)
- 10:30 ④ P. フレイレによる「意識化」を導く学校教育カリキュラムの開発
佐藤 雄一郎(大阪教育大学)
- 11:00 ⑤ 戦後初期教師のコア・カリキュラム経験における理想と現実
金馬 国晴(横浜国立大学)

自由研究16

(4号館431)

司会者：柴田好章(名古屋大学)
船越勝(和歌山大学)

- 9:00 ① リー・ショーマンによる教師の力量形成論の意義と課題
ーケース・メソッドに焦点を合わせてー
若松大輔(京都大学大学院)
- 9:30 ② G.ベイトソンの学習論と教師の省察
茂見剛(九州大学大学院)
- 10:00 ③ 初任期の語り
ー理想との乖離と生産的な結び付きー
滝川弘人(東京大学大学院)
- 10:30 ④ プログラミング教育時代における本質的な教育方法の模索
ー教師の認識階層モデルの構築ー
安谷元伸(四条畷学園短期大学)
- 11:00 ⑤ 教師視点の映像記録を活用した授業実践能力育成支援の試みⅣ
○平山勉(名城大学), ○後藤明史(名古屋大学)
○谷口正明(名城大学), 竹内英人(名城大学)

自由研究17

(4号館432)

司会者：小泉祥一(白鷗大学)
三村和則(沖縄国際大学)

- 9:00 ① 教科横断的な「包括的概念」と小学校音楽科における〔共通事項〕
ー国際バカロレア(IB)PYPの知見をもとに思案する発問ー
安江真由美(愛知学泉大学)
- 9:30 ② 批判的思考力と英語運用能力を育成する教育方法の有効性
ー国際バカロレア教育を切り口としてー
赤塚祐哉(早稲田大学本庄高等学院)
- 10:00 ③ グループによる話し合いにおける個の学びの深化過程の分析
ー高等学校の防災教育の授業を対象にー
胡田裕教(名古屋大学大学院)
- 10:30 ④ 高校での個別探究学習
ーグループでの対話による支援の試みー
○湯浅郁也(名古屋大学教育学部附属中・高等学校), 高橋亜希子(南山大学)

司会者：竹川慎哉(愛知教育大学)
三橋謙一郎(徳島文理大学)

- 9:00 ① 研究部による校内授業研究の再構築過程
有井優太(東京大学大学院)
- 9:30 ② 学校運営協議会と連携した学校改革
ー地域・保護者・教員三者の意向調査からー
澁谷あゆみ(東京都杉並区立永福小学校)
- 10:00 ③ 複線型の授業構想を可能にした校内授業研究体制づくり
ー愛知県新城市立新城小学校における渥美利夫の果たした役割ー
○白井克尚(愛知東邦大学), 山下大喜(名古屋大学大学院)
- 10:30 ④ 1990年代教育工学的アプローチによる授業研究の革新
ー諸研究成果と授業リフレクション研究の位置ー
澤本和子(日本女子大学)
- 11:00 ⑤ 授業研究を通じたプロフェッショナル・キャピタルの構築に関する実証的研究(その2)
ー3府県の教員意識調査を元にー
○千々布敏弥(国立教育政策研究所), ○久野弘幸(名古屋大学)
木原俊行(大阪教育大学), 小柳和喜雄(奈良教育大学)
柴田好章(名古屋大学), サルカールアラニモハメッドレザ(名古屋大学)
木村優(福井大学)

9月29日(日) 13:15~15:15

課題研究Ⅲ

Research on Teaching としての授業研究の可能性

(3号館331)

コーディネーター・司会者

的場正美(東海学園大学)

藤江康彦(東京大学)

提案者

サルカール アラニ モハメッド レザ(名古屋大学)

Research on Teaching としての授業研究

—理論, アプローチ, 方法, ツールズの視点を通して—

河野麻沙美(上越教育大学)

Research on Teaching としての授業研究

—方法論的特性と課題—

〈設定趣旨〉

授業研究が指し示す事象は多様である。近年では、90年代初頭における「科学的」授業研究への批判に基づき、科学的、実証的な理論形成を目的とした Research on Teaching としての側面よりも教師の学習の契機としての Lesson Study への注目がより強くなっている。それから30年たち、新たな学習論や教師論の登場や質的研究法など方法論の自覚化、急速な社会状況の変容に伴う教育学や心理学、社会学、情報科学などの学問状況の変化が様々なかたちで生じている。授業研究も、授業の社会文化性を前提としつつ、実践者と研究者との新たな関係性の模索、ICTの活用による授業記録の革新、質的研究としての認識論や方法論の自覚などにより Research on Teaching としてのありようを再構築することが可能であろう。そのことによって、授業に基づく理論構築や学術への貢献も新たなかたちで行われうる。たとえば、新たな学習者像を提起すること、教育学諸理論に対する実践に基づいた批判的検討を行うことも学術コミュニティとしての教育方法学会の役割であろう。そこで、本課題研究では、国内外における授業研究をめぐる現在の状況を踏まえながら Research on Teaching としての授業研究の現代的な可能性を探究する。

9月29日(日) 13:15~15:15

課題研究Ⅳ

道徳教育の基本と実践の探究

(3号館332)

コーディネーター・司会者

梅原利夫(和光大学名誉教授)

久田敏彦(大阪青山大学)

提案者

渡辺雅之(大東文化大学) 「特別の教科 道徳」の実践上の課題

—授業論と教材論の視点から—

藤井啓之(日本福祉大学) 道徳教育の構造的把握

—構成要素とその相互関連の発達論的検討—

〈設定趣旨〉

教育において道徳教育に関わる分野は、学力や陶冶の分野とともに、人間形成作用において重要な役割を担っている。すでに行われている幼児教育をはじめ、小学校、中学校の学校現場においては、教科書を用いた「特別の教科 道徳」が開始されており、高校においても来年度から新たな教育が始められる。このような機会に、あらためて、そもそも道徳教育の基本は何かを問い直し、あわせて実践上の諸課題を探究したい。

9月29日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル①

教育方法の視点から学校図書館を考えるⅡ

(4号館420)

企画者

鎌田和宏(帝京大学)

提案者

鎌田和宏(帝京大学)

野口武悟(専修大学)

永利和則(福岡女子短期大学)

〈設定趣旨〉

1953年に学校図書館法が制定され、60余年が経過する。同法によれば学校図書館は「学校教育において欠くことのできない基礎的な設備」とされ、必置であり「学校教育の教育課程の展開に寄与する」とされてきた。学校内に設置される「設備」として固有の法をもち、期待されてきた存在である。

近年の学習指導要領改訂時の議論で話題となった教育方法の改善で焦点の一つとなった「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」は、高等教育の議論の中では学習環境の改善が必須で、大学図書館が中心となりラーニング・コモンズの設置・活用等でもそれに対応しようとしている。これから実施される学習指導要領においても総合的な学習の時間・総合的な探究の時間において探究方法の学習が求められており、それを支援するものとして学校図書館が位置づけられている。初等・中等教育でも当然学校図書館の学習者支援、授業支援が検討されるべきであろう。事実、いくつかの自治体では学校図書館を活用した授業づくりや学習者支援の動きが始まっている。個に応ずる教育、特別な教育的ニーズに応える教育を実践する基盤としても注目されてきている。

教育方法の視点から考えても極めて重要な位置を占めると考えられる学校図書館であるが、本学会では残念ながらその意義や機能が適正に位置づけられ検討されてこなかったのではないかと。例えば本学会50周年を記念して出版された『教育方法学研究ハンドブック』には、教材やメディア、学習環境等の項があるのにもかかわらず学校図書館に関する項がない。

本ラウンド・テーブルでは学校図書館の利活用に取り組む先進事例を紹介しつつ、学校図書館がもつ教育的な意義や機能について、教育方法の視点から検討したい。

9月29日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル②

**「本質的な問い」「逆向き設計」を活かして
社会科授業を変えるにはどうすれば良いのか**
— 社会科教育学の視点からの議論 —

(4号館421)

企画者

渡部 竜也 (東京学芸大学)

提案者

角田 将士 (立命館大学)

岡田 了祐 (お茶の水女子大学)

渡部 竜也 (東京学芸大学)

〈設定趣旨〉

西岡加名恵氏が、ウィギンズやマクタイらの理論をベースに「本質的な問い」を設定し、その問いやその問いに対するパフォーマンスについての評価基準・規準を先に設定してから、授業計画を「逆向き設計」することを提案してから久しい。この間、西岡氏の研究協力校を始め、様々な学校で「本質的な問い」や「逆向き設計」に注目した授業が提案されてきた。このことは社会科も例外ではない。

「本質的な問い」や「逆向き設計」は、事実の網羅の授業を克服し、探究ベースの授業を現場に生み出すため、「真正の学び」を現場に生みだしていくための手順として登場してきたものである。網羅の授業が最も横行していると言っても過言ではない社会科分野では、特にこれらの概念に注目し期待する人が研究者だけでなく、実践家も含め、数多くいる。企画者もその一人である。

しかし現実にかような概念を活かして作成されている授業が、現場の社会科を大きく変革することに成功しているのかと問いかけた時、幾分か疑問が残る。もともと、中高の歴史教師を始め、こうした「本質的な問い」を用いる人は少なからずいた。「戦争がなぜ生じたのか。どうすれば戦争を防げたのか」と昭和史の冒頭に、文字通り「本質的な問い」を投げかける教師は少なからずいた。しかし彼らの授業は戦争についての情報の網羅のままであった。そして今、現場の「本質的な問い」や「逆向き設計」を謳った実践を見たとき、そのような実践と五十歩百歩の実践事例を少なからず目にする。

「本質的な問い」と「逆向き設計」の概念が、社会科授業の良い意味での変革をもたらすためには、どのようなことが必要になるのか。逆に何が妨害要件となっているのか。社会科教育学を専門にしている3人の研究者に提案してもらうことにした。一人は、子どもたちにとって本当に「本質的」と思える問いを意識した歴史の「真正の学び」の授業開発に取り組んでいる立命館大学の角田将士氏。もう一人は、附属小学校との連携を通して「真正の学び」のアプローチを研究されている岡田了祐氏である。そして最後の一人は、企画者であり、ニューマンの「真正の学び」や、バートン&レヴスティクの歴史教育論に関心のある渡部竜也である。

ラウンドテーブルを通して、このテーマ及び3人の提案について忌憚のないご意見を頂戴したい。

9月29日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル③

教育実践における教師の判断を支えるものは何か —「エビデンスに基づく教育」の展開の中で—

(4号館422)

企画・司会者

熊井将太(山口大学)

趣旨説明

杉田浩崇(愛媛大学)

提案者

森俊郎(養老町立養北小学校)

岡花祈一郎(琉球大学)

宮原順寛(北海道教育大学)

指定討論者

亘理陽一(静岡大学)

〈設定趣旨〉

教育領域においてエビデンスを求める声はますます広がりを見せている。当初は、政策的なレベルでの議論が中心であったが、今日では教育実践レベルでもエビデンスを活用した授業づくりや学校経営への取り組みが進められてきている。日本教育方法学会においても2017年の学会大会において「エビデンスに基づく教育と教育実践研究の課題」と銘打った課題研究が行われたことは記憶に新しい。

とりわけ教育実践レベルでのエビデンスを考える時、実証的に得られたデータ(近代科学的なエビデンス)に高い評価が与えられることで、教職経験や「目の前の子ども」(生活世界的なエビデンス)に支えられた自律的・臨床的な教師の判断が脅かされるのではないかといった点がしばしば批判的に取り上げられている。しかし、近代科学的なエビデンスを教師の判断とは敵対するものとして教育実践の外側に位置づける図式では、既に学力テストやアンケートなどの数値化されたデータの収集と活用が学校現場にも浸透し、教師にとっても日常化・身体化されつつある現状を十分に捉えることはできないのではないだろうか。

本ラウンドテーブルで議論したいのは、様々な形で教育現場にエビデンスが浸透しつつある状況を踏まえながら、教育実践の中で教師の判断の「正しさ」を支えているものは何か、その中で近代科学的なエビデンスと生活世界的なエビデンスがどのような関係にある(べき)か、ということである。提案者からは、「エビデンスに基づく学校づくり」の実践事例の中での教師の判断基準の変容、幼児教育領域における教育者の判断を支えるもの、教師教育における確信形成への道筋について報告してもらおう。それに対する指定討論者のコメントを受けて、参加者も交えて議論を行いたい。

9月29日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル④

実践の論理から「評価」概念を問い直す

— 日本語教育実践からの提案 —

(4号館423)

企画者

石井英真(京 都 大 学)

提案者

南浦涼介(東京学芸大学)

三代純平(武蔵野美術大学)

中川祐治(福 島 大 学)

〈設定趣旨〉

多くの場合「評価」といえば、個人の資質や能力を値踏みする、点数化や「評定」として捉えられがちである。だが、学びの可視化やその価値づけに関わる評価という営みは、指導や学習の改善にもつなげる。そうした評価行為の側面は、これまで形成的评价という形で概念化され研究が進められてきた。そして近年は、「学習としての評価 (assessment as learning)」といったキーワードで、教育実践や学習活動に内在的な評価機能から、「評価」概念の捉えなおしがなされてきている。しかし、評定目的であっても、改善目的であっても、これまで「評価」というと、個人を対象にその能力の判定や形成を目的合理的に行うものという発想は共通していたように思われる。権力関係や情報マネジメントに関わる「評価」という営みは、教師や子どものエンパワメントを促すことにもつながりうるし、子どもの学習の事実を中心に据えた人々の対話と共同の関係（「社会関係資本 (social capital)」）を生み出す力にもなりうる。学びの可視化（評価）が人々のつながりを生み出すという側面は、学習活動において日常的に生起しているが自覚的に追求されてきたとは言い難い。これに対して、個人の言語能力の形成だけでなく、「外国人に対する教育」という性質が向き合わざるを得ない社会運動的な側面ゆえに、近年学習共同体の形成自体も重視されるようになってきた日本語教育においては、人々がつながりやすいような、共同体形成につながるような学びの可視化を意識した実践も蓄積されてきたし、一定程度それを対象化する研究も進められてきている。本ラウンドテーブルでは、日本語教育の実践事例と議論の蓄積を紹介しながら、教育方法学分野における教育実践研究や教育評価研究の知見をふまえてその意味を検討することによって、教師あるいは学習者の実践共同体の構築という観点から「評価」概念を問い直す視座を提起したい。

9月29日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル⑤

教師の拡張的学習と専門性発達への活動理論的介入研究 —「チェンジラボラトリー」の方法論と方法—

(4号館424)

企画者

山住勝広(関西大学)

提案者

山住勝広(関西大学)

富澤美千子(横浜美術大学)

山田直之(神戸女子大学)

〈設定趣旨〉

本ラウンドテーブルは、今年度に開始した、科学研究費による研究プロジェクト「変化の担い手としての教師—拡張的学習への活動理論的アプローチ」の中間報告として、「文化・歴史的活動理論」と「拡張的学習理論」の枠組みにもとづき、学校改革の鍵を握る教師の専門性開発への介入研究の方法論と方法について検討しようとするものである。

「文化・歴史的活動理論」は、文化・歴史的に構築されてきた人間の「活動システム」を人々がどう集団的にデザインし変革していくのかを研究する枠組みである。そこでは、活動の集団的なデザインと変革への実践的な参加こそが、実践者たちの学習のプロセスであると見る新しい学習理論、すなわち「拡張的学習理論」が提起されている。本ラウンドテーブルで検討する、活動理論にもとづく教師教育研究は、学校現場での教師たちの協働的な拡張的学習とそこから現れてくる変化の担い手としての教師の「エージェンシー」(すなわち、行為の担い手としての能力と意志)の生成への形成的介入を研究方法論とするものである。

学校におけるカリキュラムや授業、教育実践の改革に関する教育方法学研究の分野では、中央からトップダウンで降ろされた教育政策を現場がただたんに実行する、といったリニアな見方について、それを批判的に乗り越えようような新たな研究枠組みがますます求められるようになっている。

本ラウンドテーブルでは、伝統的なデザイナー主導からユーザー主導の民主的な介入研究へと転換していくために、教師たち自身が主導権を握り、協働して変化を創造するエージェンシーを獲得し、高めていくような、学校現場での教師たちの拡張的学習を促進・支援する形成的介入研究に焦点を合わせ、その方法論、「チェンジラボラトリー」と名づけられている具体的な方法、そして実際の事例を提起しながら議論を進めていきたいと考えている。

9月29日(日) 15:30~17:00

ワークショップ①

授業デザインに位置づく仮説生成模擬授業の体験(3)

(4号館430)

企画者

鉄口 真理子(鳴門教育大学)

提案者

矢倉 瞳(大阪成蹊大学)

清村 百合子(京都教育大学)

衛藤 晶子(畿央大学)

〈設定趣旨〉

本ワークショップでは「仮説生成模擬授業」を通して、教師自身の「行為の中の省察」を促すという教員養成の教育方法を参加者と共有し、近年求められている教師の資質・能力育成の可能性を見出すことを目指している。

私たちは10年前から「仮説生成模擬授業」という模擬授業を開発してきた。それは、従来の模擬授業のように教師の指導技術の具体的な改善を直接に目指す立場をとらない。また、熟練教師をモデルとして初心者が見習うための模擬授業という立場をとらない。「仮説生成模擬授業」の特徴は、模擬授業の中で学習者役が何か違和感を覚えた状況で授業を止め、参加者全員でその違和感を解消するために案を出し、提出された様々な案を仮説として「実験」してみるところにある。そして「実験」を省察し、仮説をつくり変えていく。このような実験と仮説との螺旋的な連続によって、参加者全員で授業をつくりかえていくのである。「仮説生成模擬授業」の場は、現実の教室ではないが、つねに理論と実践を往還させる実験室の役目を果たす。

本ワークショップは3年目となる。「仮説生成模擬授業」は現在のところ音楽の授業を材料としているが、1回目は「仮説生成模擬授業」は教科の枠を越えて実施が可能だということがみえた。2回目はいろいろな立場の方々に共通理解をしていただける論理の必要性がみえた。3回目となる今回は「仮説生成模擬授業」の体験を行い、そのあとにその体験を材料にして、実験(行為)と仮説(省察)の関係について意見交流をしたいと考えている。

9月29日(日) 15:30~17:00

ワークショップ②

「辞書引き学習法 (Jishobiki)」体験ワークショップ

(4号館431)

企画者

深谷圭助(中部大学)

提案者

深谷圭助(中部大学)

木幡延彦(ベネッセコーポレーション)

〈設定趣旨〉

「辞書引き学習法 (Jishobiki)」は、企画者が1994年から1997年にかけて開発した教育方法である。日本では、1947年の小学校学習指導要領試案以降、小学校において辞書指導を行うことになっている。この小学校における辞書指導に関わる指導内容は、2018年小学校学習指導要領改訂に至るまで、一貫して堅持されている。しかしながら、辞典指導の内容は、辞書の構造と辞書における語順に関する学習に偏しており、辞書を活用することがどのような学力や学習態度に影響するかについてはこれまで十分に検討されているわけではない。

企画者は、1990年代以降、辞書指導によって、主体的学習態度の育成と、語彙力育成をめざして実践的な研究を主に小学校をフィールドとして行ってきた。研究成果は、「自ら学ぶ力を育てる辞書指導」(1998年度愛知県教育論文個人研究最優秀賞)、『小学1年生で国語辞典を使えるようにする30の方法』(明治図書、1998年)等によって公表され、日本の小学校において実践する教師や学校が現れるようになった。2007年に『7歳から辞書を引いて頭を鍛える』(すばる舎、2007年)が刊行されたことを契機に、家庭教育においても同教育方法が取り込まれるようになった。

さらに2010年以降、シンガポール、イギリスにおいて「辞書引き学習法 (Jishobiki)」の実証研究が始まり、日本とは異なる教育文化を背景とした国や地域において、言語、文化の違いを越境する教育方法として注目されている。特に、日本、イギリスの小学校においては、継続的に辞書引き学習に関する実証研究を積み重ねてきており、日・英両国における主体的に学ぶ態度の育成や語彙力の向上に成果を上げてきている。なお、企画者と報告者によるシンガポールにおける研究報告については、以下の論稿に示されている。

K. Fukaya, E. W. K. Lim, N. Kohata, Promoting Academic Competence in Classrooms: Linking Jisho Biki with the 'Teach Less Learn More' Pedagogical Approach in Singapore. *Journal of College of Contemporary Education* 7. pp.25-30, March 2014.

また、2017年5月20日、21日に National Library Building, Singapore で開催された Asian Festival of Children's Content2017において、招待ワークショップ "Have Fun Learning with Dictionaries: A Hands-ON Workshop by Dr Fukaya", 及び、招待講演会 "Jishobiki: The Japanese Approach to Enhancing Children's Knowledge and Use of Dictionaries." が行われ、シンガポールでの研究の紹介が行われている。

本ワークショップでは、「辞書引き学習法 (Jishobiki)」の目的やその手法について体験的に理解する場を提供するとともに、その教育方法の評価方法についても、実践事例を示し、参加者に伝えたいと考えている。

9月29日(日) 15:30~17:00

ワークショップ③

授業逐語記録にもとづく比較授業分析

— インドネシア理科授業における生徒相互の関わり合いを中心に —

(4号館432)

企画者

柴田好章(名古屋大学)

提案者

サルカール アラニ モハメッド レザ(名古屋大学)

坂本将暢(名古屋大学)

ファウザン アーダン ヌサンタラ(名古屋大学大学院)

〈設定趣旨〉

本ワークショップでは、過去8年間の国際比較授業分析のワークショップの成果をもとにし、提案者らが協同して研究を進めている比較授業分析を行う。今回は、インドネシアの中学校の理科授業(物理)の逐語記録と映像にもとづいて、比較授業分析を行い、異なる国の授業の共通性や差異を明らかにする。これを通して、文化を越えて互いに有益な知見を見いだすことをめざしている。

ワークショップでは、まず、提案者側から、分析対象授業の紹介を行う。そして、参加者も、授業逐語記録を読みながら、比較授業分析を行い、意見交換をする。今回の授業分析では、理科授業におけるグループでの実験や教室全体での発言場面における生徒相互の関わり合いに着目する。

比較授業分析によって、国を超えて、授業あるいは学習という事象における共通する知見や課題が明らかになると予想される。また、両国の教育の制度や文化的背景を考慮しつつ比較文化論的に考察することによって、授業の有する文化的固有性や共通性についても明らかになると予想される。インドネシアの授業の分析を行うことを通して、日本の授業のあり方を問うことにつながることも期待される。参加者も交えてディスカッションを行い、授業という複雑な事象に対する研究アプローチのあり方を考えたい。

9月29日(日) 15:30~17:00

ワークショップ④

教師視点映像記録を活用した授業研究方法

(4号館433)

企画者

平山 勉(名城大学)

提案者

後藤 明史(名古屋大学)

谷口 正明(名城大学)

竹内 稔博(東浦町立東浦中学校)

北川 沙織(名古屋市立小坂小学校)

〈設定趣旨〉

「映像記録の特性を生かした授業研究の方法」は、本学会でも多くの積み上げがある。

本ワークショップでは、教師視点の映像記録を活用した授業研究方法について、「参加者のアイトラッキングカメラ体験」「同一の学習指導案で初任者教師と熟練教師が実施した教師視点映像記録の比較試聴」「道徳の授業への適用事例紹介(小学校, 中学校)」を予定している。

アイトラッキングの活用に関しては、海外では最近、アイトラッキングカメラを使った教師の視点の研究が始まりつつある。例えば、Wolff (2016) らによると、教室での生徒の問題行動を記録したビデオを熟練教師と初任者教師に見せて、彼らの注視点の分布がどの程度違うのかを分析している。そして、熟練教師の注視点の方が、初任者の注視点よりもばらつきが少ないことを見出している。

企画者らは、授業実施者である教師の一人称視点の映像と注視点を記録し、これ自体を分析の対象としている。この試みを紹介し参加者とともにその可能性を議論したい。

当日、以下の流れを予定している。

- 1) 参加者のアイスブレイキング
- 2) アイトラッキングカメラ体験
- 3) 同一の学習指導案で初任者教員と熟練教員が実施した教師視点映像記録の比較試聴
- 4) 教師視点映像記録を活用した道徳の授業実践紹介
- 5) 情報交換

日本教育方法学会刊行書籍

教育方法13.	いま授業で何が問われているか	1 9 8 3	(2,400円)
教育方法14.	子どもの人間的自立と授業実践	1 9 8 5	(2,800円)
教育方法16.	個性の開発と教師の力量	1 9 8 7	(2,400円)
教育方法17.	教育方法を問い直す	1 9 8 8	(2,900円)
教育方法18.	新教育課程と人間的感性の育成	1 9 8 9	(1,940円)
教育方法19.	知育・徳育の構想と生活科の指導	1 9 9 0	(1,709円)
教育方法20.	学校文化の創造と教育技術の課題	1 9 9 1	(1,709円)
教育方法22.	いま、授業成立の原則を問う	1 9 9 3	(1,806円)
教育方法23.	新しい学力観と教育実践	1 9 9 4	(1,806円)
教育方法25.	戦後50年、いま学校を問い直す	1 9 9 6	(1,903円)
教育方法26.	新しい学校像と教育改革	1 9 9 7	(1,800円)
教育方法27.	新しい学校・学級づくりと授業改革	1 9 9 8	(1,960円)
教育方法28.	教育課程・方法の改革－新学習指導要領の教育方法学的検討－	1 9 9 9	(1,860円)

(価格は本体価格)

〒114-0023

東京都北区滝野川7-46-1

明治図書

TEL.(編)03-5907-6620

TEL.(営)048-256-2337

『教育方法』は、大会当日、会場にて大会割引価格にて販売いたします。
この機会に多数の方々のご購入をお願いいたします。

『教育方法29』より、図書文化から出版されることになりました。

教育方法29.	総合的学習と教科の基礎・基本	2 0 0 0	(1,800円)
教育方法30.	学力観の再検討と授業改革	2 0 0 1	(1,800円)
教育方法31.	子ども参加の学校と授業改革	2 0 0 2	(1,900円)
教育方法32.	新しい学びと知の創造	2 0 0 3	(1,900円)
教育方法33.	確かな学力と指導法の探求	2 0 0 4	(1,900円)
教育方法34.	現代的教育課程改革と授業論の探求	2 0 0 5	(1,900円)
教育方法35.	学習意欲を高める授業－どのような学力を形成するか－	2 0 0 6	(2,000円)
教育方法36.	リテラシーと授業改善		
	－PISAを契機とした現代リテラシー教育の探究－	2 0 0 7	(2,000円)
教育方法37.	現代カリキュラム研究と教育方法学		
	－新学習指導要領・PISA型学力を問う－	2 0 0 8	(2,000円)
教育方法38.	言語の力を育てる教育方法	2 0 0 9	(2,000円)
教育方法39.	子どもの生活現実にとりくむ教育方法	2 0 1 0	(2,000円)
教育方法40.	デジタルメディア時代の教育方法	2 0 1 1	(2,000円)
教育方法41.	東日本大震災からの復興と教育方法：防災教育と原発問題	2 0 1 2	(2,000円)
教育方法42.	教師の専門的力と教育実践の課題	2 0 1 3	(2,000円)
教育方法43.	授業研究と校内研修－教師の成長と学校づくりのために－	2 0 1 4	(2,000円)
教育方法44.	教育のグローバル化と道徳の「特別の教科」化	2 0 1 5	(2,000円)
教育方法45.	アクティブ・ラーニングの教育方法学的検討	2 0 1 6	(2,300円)
教育方法46.	学習指導要領の改訂に関する教育方法学的検討		
	－「資質・能力」と「教科の本質」をめぐって	2 0 1 7	(2,200円)
教育方法47.	教育実践の継承と教育方法学の課題		
	－教育実践研究のあり方を展望する－	2 0 1 8	(2,000円)

(価格は本体価格)

最新刊・教育方法48. 中等教育の課題に教育方法学はどう取り組むか

〈内 容〉

- I 中等教育の改革と授業実践の課題
- II 子どもの多様性と中等教育実践の課題
- III 教育方法学の研究動向

〒112-0012

東京都文京区大塚1-4-5

図書文化

TEL. 03-3943-2516